

病害虫 防除だより

No. 296

平成28年4月4日

イネ苗立枯病の防除は適正な温度管理が重要です!!

4～5月の気温は平年並みから高く、数日の周期で変わる見込みです。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温にあうと苗立枯病が発生しやすくなります。播種時の薬剤散布と適正な温度管理により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したのを使いましょう。

1)育苗温度

出芽期間...30℃を超えないようにする。

育苗期間...夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

- 気温が高いと細菌性病害が発生しやすいので、快晴時には早めにハウスの換気を行う。
- 夜間の温度が低いと、カビによる立枯病が発生しやすいので、保温に努める。

2)水

- 天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。
- 河川や湖沼、ため池の水には病原菌がいるので、灌水には水道水を使用する。
- ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3)床土

- 病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

4)薬剤防除

(※30cm×60cm×3cm)

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱*	使用回数
フザリウム菌 ピシウム菌	タチガレン液剤	播種時及び発芽後	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
ムレ苗防止	タチガレエースM液剤	播種時又は発芽後			1回
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し、播種14日まで	400～600倍	0.5L灌注	2回以内
			800～1200倍	1L灌注	

- もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病等の細菌性病害は、発生後の防除薬剤はない。高温、多湿を避け、発生しない管理を行う。特に5月中旬移植用の苗は高温期の育苗になるので注意する。



ピシウム菌による
苗立枯病 (ムレ苗)



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>) を確認して下さい。